

第2学年 英語科 学習指導案		日時	令和2年9月30日(水)
題材名	Unit4 Homestay in the United States	学年・組 人数	第2学年A組 男子12名 女子13名 計25名
指導者	平田 志穂	場所	2年A組 教室

1 単元観

本単元は、生徒がアメリカでホームステイをしたときの困った事実とその解決策を扱っている。家での決まりごとについて話す場面やホームステイ中の生活についてアドバイスする場面などから構成されている。言語材料としては、have to や助動詞の will, must, mustn't を扱っており、自分にとって身近なルールについて考えて、各国のルールと日本のルールを比較することができる。また、それらについて好き嫌いを述べたり、理由を考えることに発展させることのできる単元である。よって、本単元では、新学習指導要領(4)「話すこと(発表)」の(イ)「日常的な話題について、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」を目標とする。

これまでに学習した言語材料をもとにして、場面や状況に合わせた適切な文構成を考えたりする中で情報を整理して表現することへとつなげることができる単元である。

2 生徒観

本学級の生徒は本年度、Unit0 で「Show and tell」に取り組んだ。全体的には意欲的に取り組むことができたが、教師が提示した例文をもとにした文章をつくることにとどまる生徒や、自信のなさから原稿ばかり見ながら発表する生徒など、聞き手に分かりやすく伝わるスピーチに至らなかった生徒もいた。

昨年度2月に実施した標準学力調査の結果から、本学年の生徒は英語に関する基礎的・基本的な力はおおむね定着していると言える。しかし「英語表現の能力」についてはまだ課題を残している。

令和元年度 標準学力調査(2月実施)の結果から (%)

	英語表現の能力	英語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
本校	68.1	72.1	74.5
全国	47.8	57.5	63.8

7月に行ったアンケートでは、9割近くの生徒がペアやグループで言語活動を行っている実感を持っているが、授業の中での話す活動において、短文で型にはまったインタビューなどが多く、相手にしっかりと自分の意見を伝えるために話す機会が十分与えられていないことが理由と考えられる。

3 指導観

本単元の課題は、「因北中学校の校則についてスピーチを行う」ことである。基本文については言語活動を通して確実に身につけさせ、その後コミュニケーション活動に取り組みせることで英語表現として活用できる力をつける。

スピーチをする場面では、聞き手を意識するための工夫として、声の大きさ、発音、聞き手とのアイコンタクトの取り方、間の取り方などを意識してスモールステップで練習させ、自信をもって発表ができるように指導する。また、発表時にオーディエンスを巻き込んだパフォーマンスをすることで「伝える力」をつけていきたい。そのために、暗唱や発声練習、トップイメージを持たせるためにスピーチコンテストの優秀者の動画を見せるなどする。そして、生徒がお互いのスピーチの良いところに気づけるよう、顔を向けて話を聞いたり、リアクションをするなど、良い聞き手になることも意識させる。生徒が互いに積極的に関わりながら、お互いに英語力、表現力を高めていける授業を目指したい。

4 単元構想

めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手が興味を示すような表現方法を身につけることができる。 ・身近なルールについて理由を含めて、自分の考えを書くことができる。 ・have to, 助動詞 will, must 等を用いた文の構造を理解することができる。
-------------	---

目標	単元の課題 「Unit4 Homestay in the United States」(11時間扱い) ・因北中学校の校則について Oscar 先生にわかりやすく伝えることができる。			
	学習課題・発問	生徒の学習活動	評価規準	評価方法
まとめる 振り返る	◎単元の課題の交流・発表(1)	・作成した原稿を基に Oscar 先生に校則をわかりやすく伝えることができる。	・身近な話題について、自分の意見とその理由を述べることができる。(コ・表)	授業観察 ワークシート
↑	◎ホームステイにおける相談と先生の助言の読み取りをする(2)	・相談, アドバイスの内容について理解することができる。		
↑	◎助動詞 must, mustn't を用いた文の意味・用法の理解(1) 「must を用いることにより文にどんな意味が加わるのだろうか」	・助動詞 must を用いた文の意味・用法を理解する。 ・「～しなければならない」と義務や命令を伝える文をつくる。	・英文が伝えたいことを理解している。理解しようとしている。(コ・理)	授業観察 ワークシート
↑	◎助動詞 will の意味・用法の理解(2) 『～でしょう。』と未来のことを述べるためにはどうすればいいだろうか」	・助動詞 will を用いた文の意味・用法を理解する。	・have to, 助動詞 will, must を用いた英文を読んで、主張やその理由を理解することができる。(理)	ワークシート
活用する	◎Oscar 先生によりよく伝わるスピーチをしよう【本時】			
↑	◎「因北中学校の校則についてスピーチ原稿を書こう」(1)	・have to を用いて因北中の校則のスピーチ原稿を作成する。	・have to, 助動詞 will, must を用いて自分の意見などを書くことができる。(表)	ワークシート
↑	◎助動詞 have to の意味・用法の理解(2) 「ルールについて表現するときには、どんな表現ができるだろうか。」	・ルールやアドバイスの文を読むことで、 have to の活用方法に気付く。	・have to, 助動詞 will, must の形, 意味, 用法に関する知識を身につけている。(知)	ワークシート
↑	◎単元を通した課題の設定(1) 「Oscar 先生に因北中学校の校則について伝えよう」	・海外の校則や生活様式を調べて日本と比較して表現する。		授業観察
↑	◎「因北中学校や世界の学校の校則について考えよう」	・ALT のスピーチを聞き、海外と日本の校則の違いについて理解する。		

生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしさから、英語を話すときに声が小さくなったり、緊張から早口になるなど、聞き取りづらいスピーチになる。 ・英語を話すことで精いっぱい、相手に自分の考えが伝わっているかどうかというところまで考えが及んでいない。
-------	--

本校で育成する資質・能力

【課題発見・解決力】

始めに単元を貫く課題を提示し、新しく学習した表現を1つずつ用いていくことで、説得力のある英文ができていくことを体験させ、自分の力で英文をつくらせたい。また、課題に対して道筋をたてて解決していく力を伸ばしたい。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

因北中学校の校則と自分の意見についてのスピーチを通して、自分の言いたいことが相手に伝わる表現方法を身につける。

6 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (◇) (◆)「努力を要する」と判断した生徒への手立て	評価規準 〔観点〕(評価方法)
0 挨拶 ペアで曜日や天気などについてやりとりをさせる。	◇英語を話しやすい雰囲気をつくる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><Today's Goal> Speaker にも Audience にも効果的な Speech をすることができる。</p> </div>		
1 咲く咲く復習をする。 ・ゲーム形式で発話練習 ・既習事項の確認	◇ペアでのやりとりを基にして助動詞の確認をする。	
2 課題意識をもつ。 ・スピーチをする時、聞く時のポイントを確認する。 ・学習課題の提示	◇スピーチする時のポイント Verbal Delivery(volume, speed, sound) Non-verbal Delivery(eye-contact, gesture, smiling) Memorizing ◇聞く時のポイント Keep smiling, Eye-contact, Compliment, Reaction	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学習課題> Audience によりよく伝わるスピーチをしよう</p> </div>		
3 スピーチの順番を決め、1 回目のスピーチを順番に行う。 ・友達のスピーチを聞き、評価する。 ・友達のスピーチの良い点を英語で伝える。	◇ポイントを意識したスピーチをさせる。 ◆暗記できていない場合には、原稿を見てスピーチをさせる。 ◇スピーチについてだけでなく、良い聞き手にはどのような態度が必要か注意を向けさせる。 ・発話者に顔を向ける、うなずき、笑顔など	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><学びを深める発問> 2 回目のスピーチではどんなところに気をつけたらより良いものになるだろう。</p> </div>		
4 スピーチ動画を見て、自分たちのスピーチとの違いを考えさせる。	◇より説得力のあるスピーチにするために、何ができるか考えさせる。	(コ)
5 練習時間を設け、2 回目に備える。	◇ペアで練習し、改善点を確認する。	・ペアワークにおいて、間違ふことを恐れず、積極的に自分の考えを話している。
6 2 回目のスピーチを順番に行う。 友達のスピーチを聞いて評価する。 良い点を英語で伝える。	◇友達のスピーチを聞き、コメントを英語で伝える。 ◇代表者の発表を見て何が良いのか考えさせる。 (どのようにオーディエンスを巻き込んでいるか、よく伝えるためにどうしているか考えさせる。)	(授業観察・ワークシート)
7 代表者 3 名がクラスの前で発表する。		
8 振り返りと次回の予告を行う。	◇ワークシートに振り返りを記入する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生徒の振り返り例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者が気をつけるポイントを意識してスピーチすることができた。 ・代表者の発表はしっかりオーディエンスを巻き込んでいて、スピーチをよく聞かせていた。 </div>		

教師の話し合いのデザイン

主発問 Audience によりよく伝わるスピーチにするにはどんなことができるだろうか。

発表者、オーディエンスが気を付けるポイントを確認

〈発表者が気を付けるポイント〉

Verbal Delivery (volume / speed / sound)

Non-verbal Delivery (eye-contact / gesture / smiling)

Memorizing

〈オーディエンスが気を付けるポイント〉

Smiling, Eye-contact, Reaction, Compliment



1 回目のスピーチをグループ内で発表し、メンバーからコメントをもらう。

深める発問 自分のスピーチをよりよく伝えるためにはどんなことに留意すると良いのだろう。

ビデオのスピーチ

Hello, everyone. I am going to tell you about a school rule of Inhoku junior high school.
We have to close our eyes for 1 minute before class.
It's because we can concentrate the class. Also, we can make a fresh start of a class.
Do you like this school rule? Me? Yes, I like it.
We need this rule to study hard.
Thank you for listening to my speech.

〈予想される評価〉

- ・声が聞き取りやすい。
- ・アイコンタクトができています。
- ・聞きやすいスピードで話されている。
- ・オーディエンスを巻き込むことができています。

グループメンバーからもらったアドバイスをもとに、自分のスピーチを改善できるよう練習をし、2 回目の発表をする。

- ・オーディエンスをひきつけるためにできることをやっているか (聞き取りやすいスピード, アイコンタクトなど)
- ・原稿を十分に覚えているか (十分に覚えていないと, ジェスチャーなどに気を付けることができない)

代表者のスピーチから、伝わるスピーチのポイントを学ぶ。
(オーディエンスの巻き込み)